

2020年度インターゼミ 多摩学班

「次世代に届けたい多摩地域の在り方」
～鉄道の歩みと共に～

学部生：神尾、井上、細川、田中、野中
大学院OB：菊永、鈴木

本日の発表内容

I リサーチクエスチョンとその経緯

- 背景と目的、調査方法などを精査していく

II 日本の鉄道史

- 多摩地域に広がる鉄道史から、産業や街の発展のきっかけを知る。

III 地域社会におけるモビリティの役割

- 「モノを運ぶ」から変わってきた様相を見る。

IV 今後の都市近郊について

- あたらしい形の都市郊外を考察

V 30年後に住み続けたい多摩地域の姿

- 次世代にとって住みやすい姿を推察する。

I. リサーチクエスチョン

今年度のリサーチクエスト

30年後に届けたい多摩地域の在り方
— 鉄道のおゆみと共に —



昨年度報告「産業の視点からの報告」、に引き続き
【モビリティの視点】を分析し、ありたい姿の洞察へ

Ⅱ. 日本の鉄道史

東京の発展に貢献した鉄道：国鉄編



図 2-6 明治時代の(中央線)甲武鉄道

多摩と東京を繋いだ動脈 甲武鉄道（現中央線）

物資輸送

旅客輸送や貨物輸送

沿線価値の向上

初めて多摩と横浜を結んだ 横浜鉄道（現横浜線）

絹の運搬

貨物から旅客へ

キャンパスの増加により、現在の
横浜線へとニーズを変化

貨物路線として多摩と港を繋いだ 南部鉄道（現南武線）

砂利の運搬

貨物輸送

沿線に住む技術者・労働者の
移動を支える

東京の発展に貢献した鉄道：私鉄編

沿線開発や観光に力を入れる 小田急電鉄

貨物輸送

都心へのアクセス線

箱根や江ノ島への観光路線

多摩から都心に労働力を運んだ 京王電鉄

東京都心方面への通勤・通学路線

宅地開発に伴い、
住宅地へのアクセス線

レジャー輸送
多摩ニュータウンに直結する

都市開発に力を入れる 東急電鉄

都市開発

沿線住民の交通網

付加価値の向上

Ⅲ. 地域社会におけるモビリティの役割

私鉄2.0～ 鉄道会社中心のまちづくり

重点施策 ③ 沿線価値・生活価値の螺旋的向上

交通、不動産、生活サービスの各事業が有機的・螺旋的に繋がり沿線価値が向上していく

沿線住民の交通網

都市開発

住宅地の開発

商業施設の開発

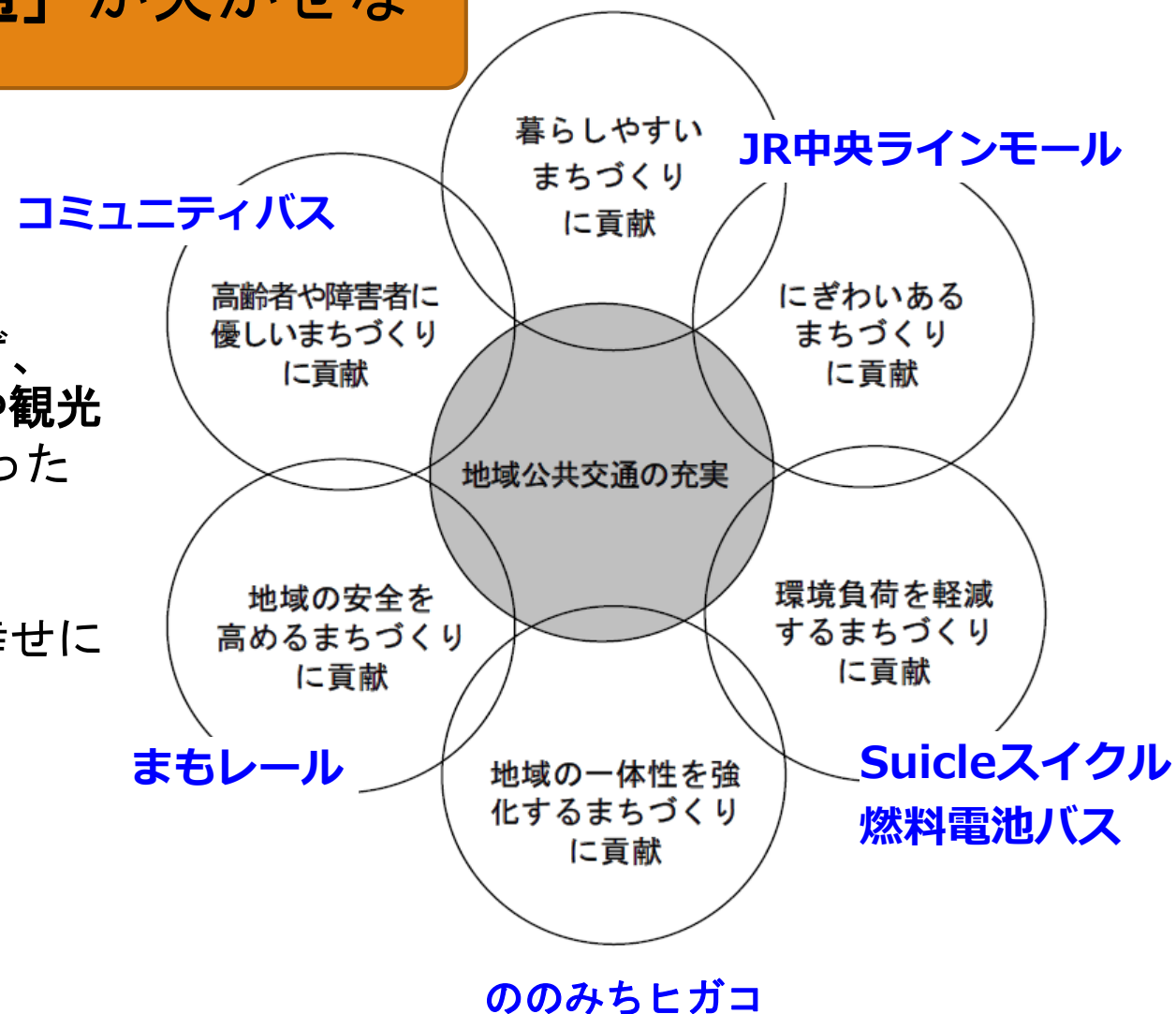
付加価値の向上



「まちづくり」には「地域公共交通」が欠かせない

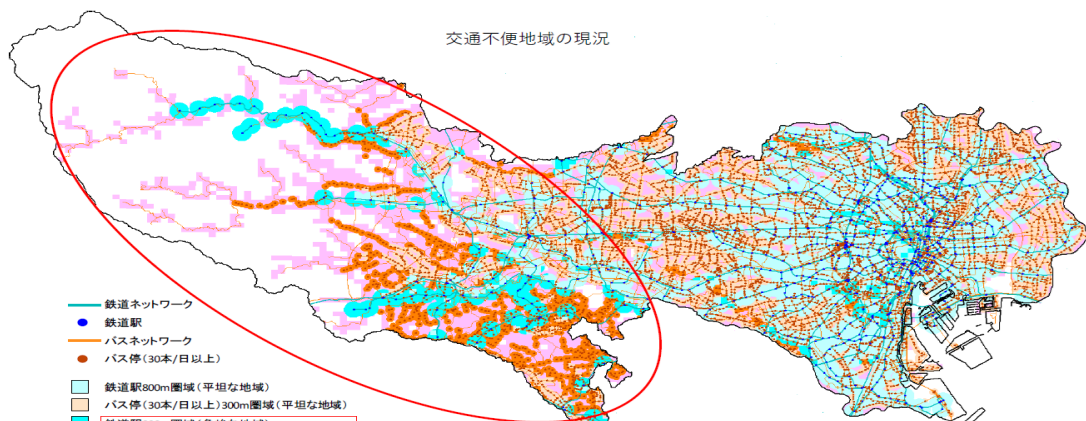
地域公共交通の充実とは、輸送面の効果にとどまらず、「地域公共交通の充実 → 利便性の向上 → 買物客や観光客の増加 → にぎわいあるまちづくりの実現」といったまちづくりに対する効果も期待できる

活用の仕方によって、地域公共交通は人とまちを幸せにできる可能性を備えている



「まちづくり」には「地域公共交通」が欠かせない

西東京バスの一日の平均輸送人員はおよそ72000人。市民の生活を支える足として住民に寄り添ったサービスの展開が行われている。



交通不便地域に145万人もの人達が住んでいる (多摩地区人口の34%)

コミュニティバス

高齢者や障害者に優しいまちづくりに貢献

暮らしやすいまちづくりに貢献

JR中央ラインモール

にぎわいあるまちづくりに貢献

地域公共交通の充実

地域の安全を高めるまちづくりに貢献

まもレール

地域の一体性を強化するまちづくりに貢献

環境負荷を軽減するまちづくりに貢献

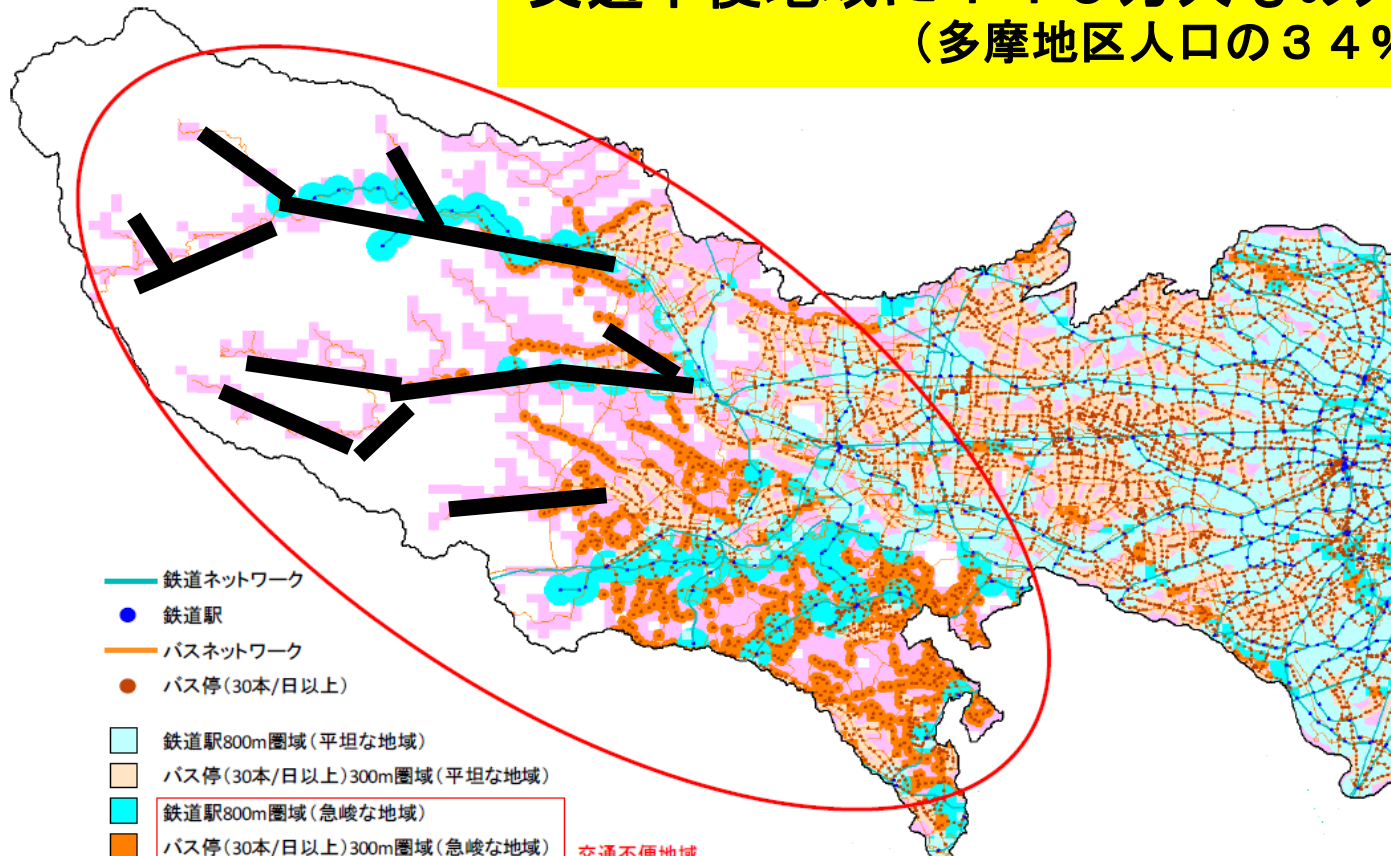
Suicleサイクル燃料電池バス

ののみちヒガコ

多摩が抱える交通の課題

少子高齢化・人口減少社会への対応が迫られている

交通不便地域に145万人もの人達が住んでいる
(多摩地区人口の34%)



- (その他の課題)
- 高齢者・若者・非就業者の外出率低下
 - クルマ依存社会
 - 免許返納ができない後期高齢者
 - 若者のクルマ離れ
 - 南北交通問題
 - 都市計画道路の整備遅延
 - コミュニティバスの財政負担増
 - 放置自転車
 - 歩行者・自転車にとって危険な狭あい道路

「交通不便地域」とは平均傾斜角度が2%以上の急峻な地形のエリア、または鉄道駅800m、バス停(30本/日以上)300m圏域外のエリアを指す
又は、鉄道駅800m、バス停(30本/日以上)300m圏域外のエリア

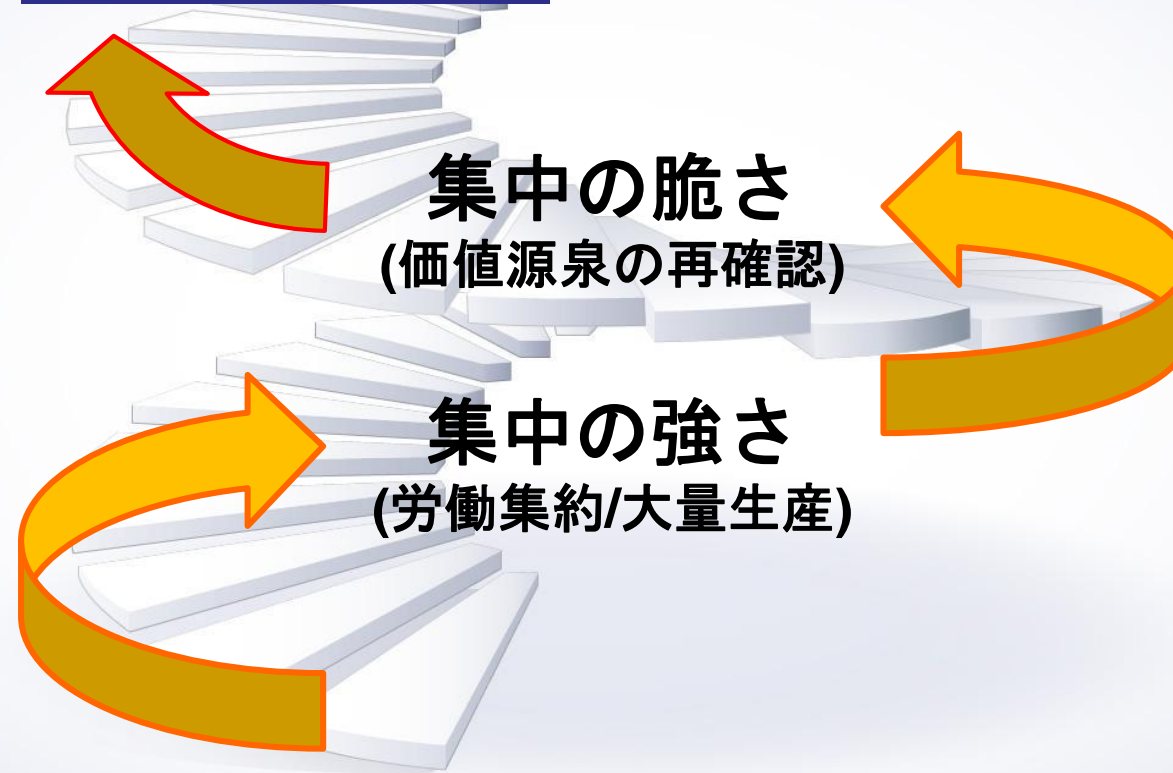
IV. 今後の都市近郊について

Withコロナの地域社会仮説

エコシステム社会 (こと/ソフト中心)

- 地方分権/ダイバーシティ
- 人生を楽しむ
- 共同体とコミュニティ
- 町人文化
- 循環型社会/リサイクル
- カスタマイズ生産
- 自給自足
- 相互扶助/シェアリングエコノミー
- スクラップ&ビルド都市 (まちのリノベーション)

超江戸社会 (ポスト工業化社会)



工業化社会 (もの/ハード中心)

- 中央集権/グローバルスタンダード
- 富国強兵/欧米キャッチアップ
- 官僚行政と個人
- 労働の癒しの為の文化
- 大量生産/大量消費
- ピラミッド組織による労働集約
- 分業化
- 合理主義/効率主義
- 固定化都市

未来のまちのあり方

日立京大ラボのAIによる2050年までのシミュレーション

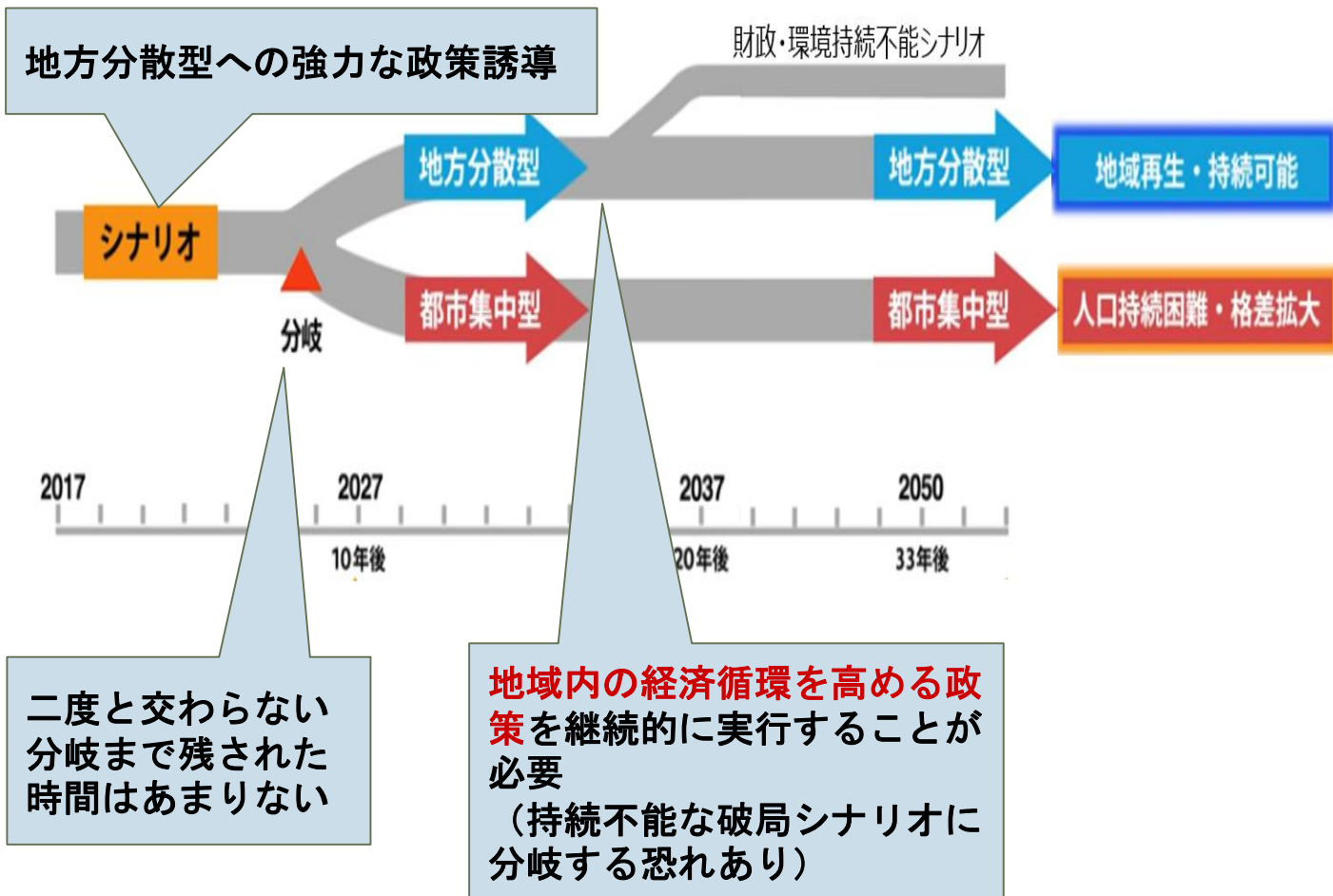


表1|シナリオ解釈結果

2052年における各シナリオグループの社会指標を人口、財政、地域、環境・資源、雇用、格差、健康、幸福の8つの観点で評価した。2018年と比較し、数値が向上・好転している指標を○、低下・悪化している指標を×、変化が少ないものを△で表現した。

シナリオグループ	人口	財政	地域	環境資源	雇用	格差	健康	幸福	解釈
1	○	△	○	△	△	○	△	○	地域再生・持続可能 財政持続性に注意要
2	△	△	△	△	△	△	△	△	持続性不良・不満
3	○	△	△	△	△	○	△	△	人口持続可能・不満
4	○	△	○	×	△	○	○	○	環境持続不能
5	○	×	○	○	△	○	○	△	財政持続不能
6	×	○	×	○	○	×	×	×	都市集中・格差拡大 人口持続困難

“TOKYOのベッドタウン”から自立するために

ヨーロッパの地方分散型まちづくりに注目する

「街の開発」と「まちの開発」の両立が必要になるのではないか。
人口減少社会に対応した「空間の再配分」と「地域内経済循環のまちづくり」

ドイツ（などヨーロッパ）の都市と
日本の都市のありようを異なったものにして
いるポイントは

- ①まちづくり・都市の空間づくりのあり方
（自動車規制や郊外の大型店舗等の規制を含む）
- ②地域内での経済循環まちづくり
（ヒト・モノ・カネ・エネルギー）



写真はドイツのニュルンベルク郊外にあるエアランゲンという地方都市（人口約10万人）の中心部の様子である。

ドイツの多くの都市は、中心部から自動車を完全に排除して歩行者だけの空間にし、人々が「歩いて楽しむ」ことができ、しかもゆるやかなコミュニティ的つながりが感じられるような街になっている

V. 30年後に住み続けたい多摩地域の姿

Z世代が考える「住みたい未来の多摩」

TAMAエコシステム

	「街の開発」 ハード (郊外における空間リノベーション)	「まちの開発」 ソフト (地域の経済循環まちづくり・コミュニティ)
交通	新モビリティ&自動運転用のインフラ整備 歩けるまちづくり・自転車道の整備	モビリティ・ディバイドのない交通システム 環境定期券(地域内の公共交通乗り放題)
教育	サテライト保育園 廃学校の利活用	こどもを街のみんなで育てる 大人の学校・大人の部活動(NPO学習拠点)
働き方	空き家・空きビルをサテライトオフィスに	テレワーク、副業&複業、逆参勤交代、職住近接
エネルギー	再生可能エネルギーを多摩でつくる	環境意識の醸成
農業	空き家・空ビル・屋上・空地での都市型農業	身近な農業体験・農業研究・友産友消
経済	ロードサイドの大型店舗の規制・地元産業	地域通貨・土地の所有と利用の分離・シェア
自治	地域課題解決の事業化・公共空間の再配分	市民参画のしくみ・ソーシャルラボ

「住みたい未来の多摩」をつくるために

街の開発

国・自治体・大手資本による多極集中

新型コロナ危機を契機としたまちづくりの方向性(イメージ) 国土交通省

- 人々の働く場所・住む場所の選択肢を広げるとともに、大都市・郊外・地方都市と、規模の異なる複数の拠点が形成され、役割分担をしていく形が考えられる。
- 複数の用途が融合した職住近接に対応し、様々なニーズ、変化に柔軟に対応できるようなまちづくりが必要。



重点施策③ 沿線価値・生活価値の螺旋的向上

交通、不動産、生活サービスの各事業が有機的・螺旋的に繋がって沿線価値が向上していく



まちの開発

コミュニティ・デザイン
自分たちでまちをつくる

ドイツ

SDGs先進都市 フライブルグ

市民主体の「街づくり」を行っている数少ない先行事例。
街の課題解決方法の見本となる要因が複数個ある。

SDGs先進都市—市民主体の持続可能なまちづくり

ドイツ・フライブルグ市を参考に

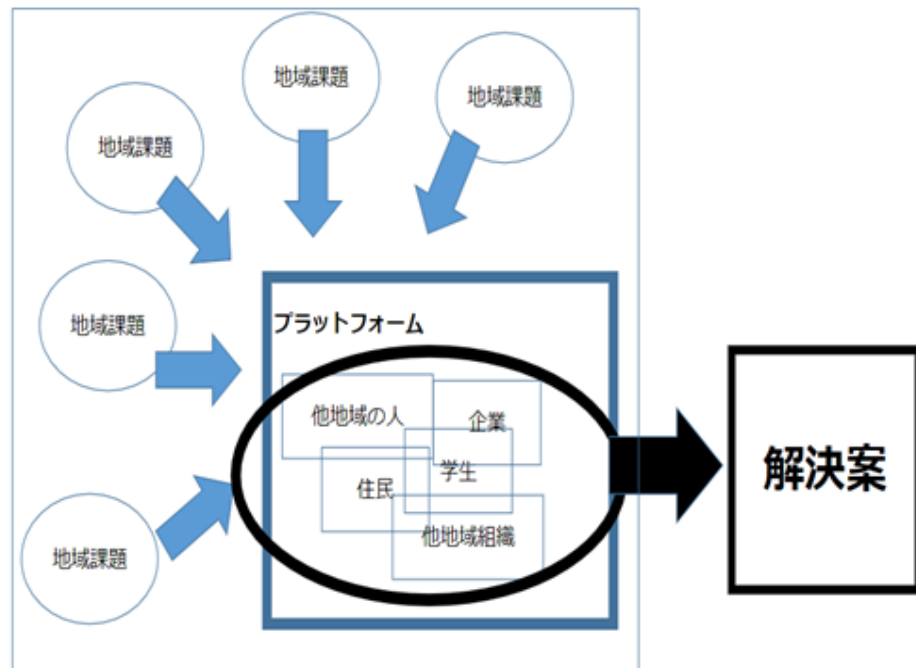
(環境・大学都市で有名⇒多摩がもつ特徴を活かせる)

成功要因9つ

- ①「高い市民の環境意識と活動への参加意欲」
- ②「エネルギー関連産業の集積」
- ③「コンサルタントや非営利団体の活動の活発化」
- ④「市民活動を支える学習拠点の充実」
- ⑤「学校や教員の自由裁量の大きさ」
- ⑥「公益性の高い活動を行って当然という市民風土」
- ⑦「大学入学前の若者がボランティア活動を実施」
- ⑧「計画段階からの市民参加と時宜にあった市民の取組」
- ⑨「議会と市民参加で成り立っている持続可能性管理システム」

提言 市民主体のまちづくりのしくみ

産官学 × 『民』



ワタシの他己満足活動
～私とまちを繋ぐ課題解決プラットフォーム～